

平成25年度

(2013年度)

町田市の財政

- 普通会計決算状況
- 財政の健全化

平成26年12月

町田市財務部財政課

はじめに

地方公共団体の財政は、一般家計と同じように収入（歳入）と支出（歳出）で構成されています。町田市の財政は、その歳入と歳出が計上される一般会計（行政の一般的な歳入、歳出を経理する）と5つの特別会計（一つの目的を持った事業の収支を一般会計とは切り離し、単独で経理する）から成り立っています。

この一般会計や特別会計は、地方公共団体によって会計の設定や内容が異なるため、自治体間の比較が困難です。そこで、総務省の定めた全国統一の基準をもって各会計を再構成し、自治体間の比較分析を可能にした会計区分が普通会計と公営事業会計です（普通会計と公営事業会計の構成は1ページをご覧ください）。

町田市の平成25年度普通会計決算額は歳入・歳出総額は前年度を下回りました。

歳入について見ると、市税は固定資産税・個人市民税の回復によって、前年度に比べ9億9千万円の増収となりました。一方、市債は都市計画事業債の減、鶴川駅前公共施設整備事業債の皆減によって、前年度に比べ44億2千万円の減収となりました。

歳出について見ると、生活保護費や民間等保育所運営費の増加等により社会保障関係経費（扶助費）が13億3千万円増加しました。一方、町田市立陸上競技場整備事業・鶴川緑の交流館整備事業の完了等により投資的経費が71億5千万円の減少となりました。

これらの影響などにより経常収支比率は前年度から1.8ポイント上昇し、前年度から引き続き90%を超えるなど（92.3%）、財政構造の硬直化が進行しています。

今後も少子高齢化による生産年齢人口の減少や医療・介護給付の増加等によって、市税収入の伸び悩みや社会保障関係経費の増加は避けられない状況であり、今後さらに厳しい財政運営を強いられるものと予想されます。

本書では、平成25年度の決算状況について、普通会計の数値を用いて経年比較や対前年度比較、他市との比較を行うことにより、町田市の財政の現状をお知らせしています。

また、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく、健全化判断比率の4指標、及び公営企業ごとの資金不足比率の算定結果等により、市全体の財政の健全性を示しています。

今後も市財政の状況について、よりわかりやすい情報の提供に努めるとともに、分析結果を活用しながら持続可能な財政運営を目指していきます。

平成25年度 町田市の財政

目 次

I. 普通会計決算状況	1
1. 平成25年度普通会計決算の概要	1
(1) 収支の状況	1
2. 歳入	2
(1) 平成25年度歳入の状況	2
3. 歳出	6
(1) 目的別分類による歳出の状況	6
(2) 性質別分類による歳出の状況	13
4. 積立金・市債	22
(1) 積立金と市債現在高の推移	22
5. 財政指標	24
(1) 各財政指標の推移	24
II. 財政の健全化	30
1. 健全化判断比率	32
(1) 実質赤字比率	32
(2) 連結実質赤字比率	33
(3) 実質公債費比率	34
(4) 将来負担比率	35
2. 資金不足比率	36

付属資料

1. 決算カード（普通会計）	38
(1) 平成25年度決算状況	38
(2) 平成24年度決算状況	40
2. 多摩26市の中の町田市（財政指標比較）	42
3. 多摩26市の中の町田市（市民一人当たり普通会計決算額比較）	43

【注意事項】
文中及び図表中の数値については、原則として各項目ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計、差引き等が一致しない場合があります。